

道の駅「あらい」

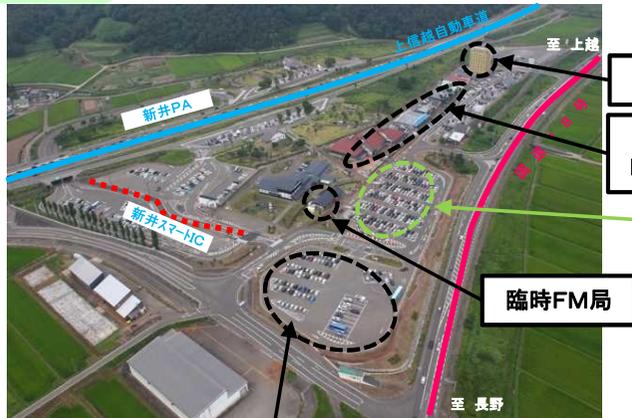
- 豪雪地帯にあって、環境・観光にも配慮した新たな防災拠点としての「道の駅」
- 降積雪期の大規模災害発生時に、駐車場の一部を立体化しておくことで、臨時避難場所や物資保管場所として利用
また、近隣のメガソーラー発電所と接続し、EV車も電源車として災害時に活用

＜地方創生拠点としての機能＞
地域センター型

防災
地域・広域災害への支援基地機能

インバウンド観光
北陸新幹線新駅・国立公園の独立との連携

観光総合窓口
地域資源をつなげるネットワーク構築



緊急時協定に基づくヘリポート利用

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
あらい	新潟県	妙高市	国道18号	既設	平成12年	一体型

駐車場立体化(スノーシェルター化)



【平常時】多客時の収容、冬期バリアフリー対応
【災害時】冬期など天候に影響されず、1階部分を臨時避難所や物資補完、積み替えに活用

メガソーラーとEV車を活用した電力供給



【平常時】EV対応充電設備の設置
道の駅連絡用としてEV車を活用 など
【災害時】メガソーラーと連携しEV車による電力供給

地域の概要

- ① 過去に災害を経験した自然豊かな豪雪地帯
・中越沖地震、豪雪、融雪災害(土砂崩れ)等を経験 → 雪や環境に対応した防災拠点が急務
- ② 海にも山にも近い、交通結節点に「道の駅」が立地
・国道と高速が直結し、新幹線新駅も新設 → 防災拠点として道の駅がベスト
- ③ スキーや日本らしさ(国立公園等)を求めてくる外国人客の増加
・外国人客(H18:350人→H25:2万人) → 観光客にも安心な防災拠点が必要

直売所・レストラン

【平常時】農産品等の直売
【災害時】避難者等への無償提供



FM協定放送

【平常時】観光情報等提供
【災害時】災害情報提供



ホテル

【平常時】宿泊施設
【災害時】避難者等への無償提供



公園

【平常時】水遊び場等
【災害時】緊急時の貯水機能



＜提案の先駆性・ポイント＞

新たな防災拠点

- 「雪」に対応した防災機能強化
 - ・駐車場立体化によるスノーシェルター化
 - ・EV車による消雪設備等への電力供給等
- 「環境」「観光」に配慮した防災機能強化
 - ・メガソーラーと連携しEV車を災害時に活用
 - ・観光客への防災情報提供(外国人対応)
 - ・平常時の観光施設を災害時にも無駄なく利用

＜実施内容＞

- 地域住民に加え、観光客へも対応した1次避難機能強化
 - ・駐車場立体化、無線LAN整備(立体化駐車場内含む)
- 外国人案内所、ATM、農産品直売所の拡充等の機能充実、旅行企画提供など
- 避難所、支援部隊の基地機能(ハブ基地機能含む)の向上
 - ・直売所等と連携した飲食、宿泊提供
 - ・スマートIC 24時間化 など
- メガソーラーとEV車を活用した災害時の電力供給拠点機能
 - ・メガソーラー発電所との連携による非常時の電力供給協定・システム構築
 - ・EV充電器整備、EV車の災害時活用 など